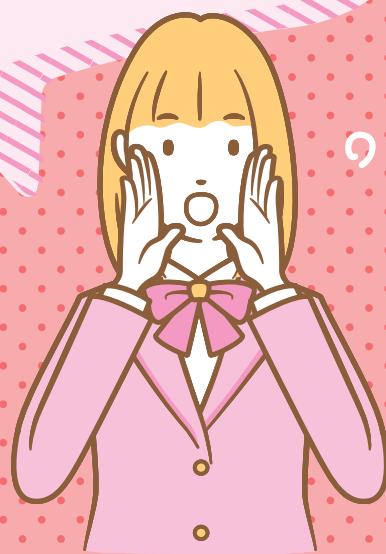


JST 女子中高生の理系進路選択支援プログラム
令和6年度実施内容

集まれ！
宮崎女子サイエンスガールズ
～サイエンスの岩戸を開けてみよう～



宮崎大学

UNIVERSITY OF MIYAZAKI

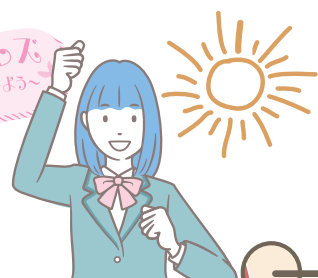
1

University of Miyazaki
Faculty of Engineering

企画の背景・課題



集まれ！女子ワールド
宮崎の女子の岩戸を開けてみよう～



プログラムを1年間実施したことによって明らかになった課題

女子中学生向けのプログラム拡充

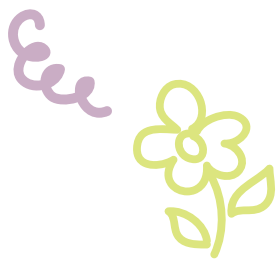
早期段階での理系への興味喚起や、工学分野で活躍する女性のロールモデルを提供する取り組みが必要とされている。女子中学生向けプログラムの拡充が必要。早期の理系分野への興味喚起や女性ロールモデルの提供をさらに広げていくため、アクセスしやすさを考慮した開催場所の検討等、新たな取組を行う必要がある。

地域社会との連携強化

広域的な連携を構築することができているものの、女性技術者との交流機会や地元企業との協力体制、現場体験やキャリア教育を通じた支援体制のさらなる強化が必要である。工学分野で活躍する女性技術者との交流機会を増やし、地元企業や研究機関と協力して現場体験やキャリア教育を提供することで、地域全体での支援体制を構築することが重要である。

認知度向上に向けた取り組み

広報活動および教育委員会や連携企業協力の下、認知度は高まってきているが、アンケートの中には「もっと早く知りたかった」という声もあり、引き続き広報活動、学校・企業連携の強化、継続的なアンケートなどを実施する。



2

University of Miyazaki
Faculty of Engineering

企画の目的・目標及び実績



★目標とこれまでの実績 (令和5年度) | 年目

大項目	中項目	小項目	目標 (人)	実績 (人)
参加人数	女子中高生	中学1年生 (中等教育学校1年生)	150	74
		中学2年生 (中等教育学校2年生)	150	150
		中学3年生 (中等教育学校3年生)	150	196
		高校1年生 (中等教育学校4年生)	150	75
		高校2年生 (中等教育学校5年生)	0	76
		高校3年生 (中等教育学校6年生)	0	11
		小計	600	582
	保護者	90	79	
	教員	30	43	
	広報活動	マスメディアへの取り扱い回数	10回	8回

(令和6年度) 2年目

大項目	中項目	小項目	目標 (人)	実績 (人)
参加人数	女子中高生	中学1年生 (中等教育学校1年生)	150	206
		中学2年生 (中等教育学校2年生)	150	324
		中学3年生 (中等教育学校3年生)	150	179
		高校1年生 (中等教育学校4年生)	150	268
		高校2年生 (中等教育学校5年生)	0	227
		高校3年生 (中等教育学校6年生)	0	140
		小計	600	1344
	保護者	90	116	
	教員	30	79	
	広報活動	マスメディアへの取り扱い回数	10回	6回

★イベント参加実績（内訳）（令和6年度）2年目

取組内容	実施日	実施場所	募集対象者 ・人数	参加者内訳							合計	
				中1	中2	中3	高1	高2	高3	保護者		教員
① サイエンス キャラバン	5月27日	延岡北方学園 中学校	中学生 220人 教員 10人	7	12	7	-	-	-	-	0	26
	6月1日	宮崎北高校		-	-	-	17	8	-	-	0	25
	6月20日	久峰中学校		1	42	-	-	-	-	-	1	44
	9月26日	日南学園中学校		19	31	17	-	-	-	-	2	69
	11月7日	住吉中学校		-	27	-	-	-	-	-	0	27
	2月19日	宮崎大学附属 中学校		-	56	-	-	-	-	-	0	56
	2月21日	宮崎西中学校		36	-	-	-	-	-	-	0	36
2月28日	宮崎日本大学 中学校	56	46	44	-	-	-	-	1	147		
② 講演会	6月15日	都城泉ヶ丘高校・ 附属中学校	中学生 70人 高校生 50人	20	18	20	177	127	128	0	35	525
	8月9日	宮崎大学工学部	教員 5人 保護者 30人	7	8	3	7	6	-	12	0	43
	2月22日	宮崎科学技術館		9	4	2	1	1	-	7	0	24
③ アマテラス サイエンス 体験講座	8月9日	宮崎大学工学部		8	12	5	8	14	1	20	0	68
	10月19日	都城泉ヶ丘高校・ 附属中学校	中学生 60人 高校生 40人	1	6	11	10	-	-	8	16	52
	11月16日	宮崎大学工学部	教員 5人 保護者 15人	9	15	3	13	2	-	15	4	61
	11月21日	宮崎大学工学部		-	-	22	-	-	-	-	3	25
3月3日	宮崎大学工学部		-	-	-	4	16	-	-	0	20	
④ エンジニア リング カフェ	6月15日	都城泉ヶ丘高校・ 附属中学校	中学生 50人 高校生 30人 保護者 25人	0	3	0	3	13	5	0	-	24
	8月9日	宮崎大学工学部		7	9	3	7	6	-	12	-	44
	8月25日	九州電力 宮崎支店		0	1	1	0	3	2	4	-	11
	10月19日	都城泉ヶ丘高校・ 附属中学校		1	5	10	10	-	-	6	10	42
	11月16日	宮崎大学工学部		9	14	3	10	2	-	17	2	57
	11月21日	宮崎大学工学部		-	-	22	-	-	-	-	3	25
	12月8日	ピノックパーク		0	2	1	0	0	1	1	-	5
	12月23日	デンサン		0	0	0	0	4	-	0	-	4
12月25日	旭化成	3	2	0	0	9	-	1	-	15		
2月22日	宮崎科学技術館	9	4	2	1	1	-	7	0	24		
⑤ 施設見学	7月31日	宮崎大学工学部	中学生 50人 高校生 30人 教員 10人 保護者 20人	1	1	1	-	-	-	0	2	5
	8月25日	九州電力 宮崎支店		0	2	1	0	2	2	4	0	11
	12月8日	九州電力 小丸川発電所		0	2	1	0	0	1	1	0	5
	12月23日	デンサン		0	0	0	0	4	-	0	0	4
	12月25日	旭化成		3	2	0	0	9	-	1	0	15
計				206	324	179	268	227	140	116	79	1539

3

University of Miyazaki
Faculty of Engineering

企画の概要



工学部で
あなたの
未来を
照らそう

取組① サイエンスキャラバン



女性研究者または女子学生を中心に宮崎市内の中学校を訪問し、工学部の学業・研究の様子、卒業後の進路などの説明や工学部の魅力を紹介します。

取組② 講演会



卒業生OGや協力企業の女性社員等に協力を依頼し、女性理系選択者のロールモデル、ワークライフバランス、業務内容などを紹介する。

取組⑤ 施設見学



連携機関である県内企業を訪問し、施設見学および女性社員との交流を行う。大学内の施設見学も取り入れる。

取組③ アマテラスサイエンス

体験講座



宮崎大学工学部において、ミニ講義や実験体験を提供する。実験をチームで進めることにより、議論しあい、生徒が主体的に進める企画とする。

取組④ エンジニアリングカフェ



在学女子学生、女性研究者、大学OGと親しく情報交換できる空間を提供する。女子中高生同士が深く交流できるイベントを実施する。

—リケジョのちからで、
科学の岩戸を開く—

多彩なイベントを通じて
学びや研究を深く知る機会
を提供しています。

コーディネーターの業務内容および配置による効果

★業務内容

- ・イベント運営（イベント内容の検討、関係者との連絡調整、申込み対応、当日の運営等）
- ・プロジェクトおよびイベントの告知広報
（パンフレットやチラシ、WEBサイトの制作・更新、外部制作会社とのやり取り、教育委員会との連絡調整等）
- ・サイエンスキャラバン実施校の開拓（資料作成、中学校への周知、提案打診等）

★配置による効果

- ・県内各自治体の教育委員会と連携し、イベント情報を広く確実に対象者に届けることができる。
- ・コーディネーターを推進役とした企画の実行体制が構築できている。



実施主体



宮崎大学(工学部他)
清花アテナ男女共同参画推進室

- 講座・セミナー企画
- ホームページ&動画制作
- パンフレット制作
- その他

企画立案協力

実施協力

共同機関



宮崎県教育委員会
宮崎市教育委員会

連携機関



九州電力、旭化成、デンサン



連絡



中学校・高校

参加

改善

実施

- 講座・セミナー
- ワークショップ
- 実験学習
- 施設見学
- 出前講義



女子中高生

保護者

教員

継続

工学部・農学部・医学部
男女共同参画推進室

実施機関内および教育委員会・民間企業との連携状況

機関名	連携状況
宮崎県教育委員会	校務支援システムを通じたイベント周知を都度行っている。各イベントには名義後援を付与。
宮崎市教育委員会	本事業についての説明・打合せを実施。学校便を利用したパンフレット及びチラシの配付、校務支援システムを通じたイベント周知、キャラバン実施校の紹介など。各イベントには宮崎市町村教育委員会連合会の名義後援を付与。
九州電力株式会社	・ 8月、12月に施設見学会を実施 ・ 2月の講演会イベント参加
旭化成株式会社	・ 12月に施設見学会を実施
株式会社デンサン	・ 12月に施設見学会を実施 ・ 2月の講演会イベント参加
株式会社宮崎銀行	・ 2月の講演会イベント参加
清本鉄工株式会社	・ 2月の講演会イベント参加

NEW!

NEW!

成果発信!!

ワークショップ
の企業体験

普及



未来の女性技術者& 科学者

年間スケジュール

令和5年度（実績）

業務項目（取組）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①サイエンスキャラバン			1回			1回	1回				1回	
②講演会					1回						1回	
③アマテラス サイエンス体験講座			1回	2回	1回	1回		2回				
④エンジニアリングカフェ					1回			2回				
⑤施設見学								1回	4回			
全体会議							1回			1回		

令和6年度（実績）

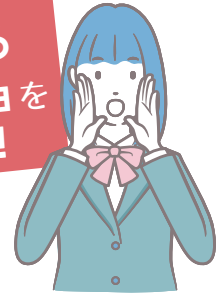
業務項目（取組）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①サイエンスキャラバン		1回	2回			1回		1回			3回	
②講演会			1回		1回						1回	
③アマテラス サイエンス体験講座					1回		1回	2回				1回
④エンジニアリングカフェ			1回		2回		1回	2回	3回		1回	
⑤施設見学				1回	1回				3回			
全体会議	1回										1回	

4

University of Miyazaki
Faculty of Engineering

取組の実施状況 女子中高生向けの取組

日本で
活躍する
リケジョを
育てる！



工夫点、他機関と共有したい成果や効果

事業実施2年目となり、当該プロジェクトの認知度が高まり、連携する企業や学校が広がった。SSH（スーパーサイエンスハイスクール）との連携も進めている。1年目に3回実施した企業施設見学は、企業からの申し出により今年度は回数を増やして実施した他、当該プロジェクトを“人材育成の柱”として位置付け、九州内の他事業所でも先進事例として取り組む企業の動きも見られた。



1年目を踏まえて変更・改善した内容

1年目は年度途中からの開始だったこともあり、周知を行う学校側も見通しが立てにくかったため、2年目は教育委員会や学校が見通しを持って生徒に周知できるよう、早期に年間スケジュールを確定させ示した。また、参加者のスケジュールを先取りできるようイベント開催前に余裕をもってチラシ制作・配布をおこなった。



課題および次年度に向けた解決策

連携企業との関係性を広げながら、イベント内容や開催場所をさらに充実させ展開できるよう働きかけを継続して行っていく。

教員・保護者向けの取組

工夫点、他機関と共有したい成果や効果

各イベントには保護者同伴可とし、オープンキャンパス等で実施したエンジニアリングカフェの際は教員・保護者向けに交流を図る場を設けた。生徒とは別室で開催することで意見交換等が盛んに行われる様子が見られた。



1年目を踏まえて変更・改善した内容

保護者向け交流会の実施は毎回ではなかったが、アンケート結果などを踏まえ毎回実施できるよう体制を構築した。また、案内する大学教員を毎回変えて実施することで、参加頻度の高い保護者の満足度向上も図っている。

課題および次年度に向けた解決策

これまでのアンケート結果を活かし、保護者のニーズに沿ったコンテンツやプログラムが実施できるよう計画していく。



5

University of Miyazaki
Faculty of Engineering

周知活動の実施状況



どんなイベント活動があるかな?

広報活動の実施状況

理系および工学部の魅力や事業活動報告等をまとめたパンフレットや、各イベントに応じて内容に興味を持ってもらえるような写真やデザインを用いたチラシを制作し、配布を行った。1年目の広報活動は市内の周知にとどまっていたが、2年目は県内各自治体の教育委員会との連携で、広域的な広報活動ができたことにより、キャンパスが所在する市外からの参加者も徐々に増加している。

成果の普及・展開のための活動の実施状況

既存ホームページのリニューアルを行い、事業の情報を集約しながらSNS (Instagram) も開設し、ホームページと連動させることで積極的な情報発信のツールとして活用している。「グラフィックレコーディング」という手法で内容を記録した講演会レポートをはじめ、実施した各イベントのレポートはホームページ内に掲載し活動状況を紹介している。また、イベント参加者に対して毎回押印した「修了証」を発行、授与しており、好評を得ている。大学の広報部署とも連携しプレスリリースを行った。NHKや地元テレビ局、新聞社等メディアの取材を通して、地域の方々にも広く取り組みを知ってもらえる機会に繋がった。

パンフレット



グラフィックレコーディング



修了証



チラシ



ホームページ

6

University of Miyazaki
Faculty of Engineering

事業の継続性に関する検討状況

実施体制の構築に向けて検討・実施したこと

日頃から関係各所と連絡を密に取り合い事業を実施している。全参画機関による4月の全体会議では、学内関係者5名、県教育委員会関係者1名、企業3名が参加し、1年目の振り返りを行い、得られた成果や改善点、今年度の展開について議論した。

今後の事業展開の構想

実施規模を宮崎大学中心から街中の錦本町新キャンパスへと拡大し、アクセス性の向上を活かして県内各地の女子中高生の理系進路選択支援を目指す。街中という利点を活かし、宮崎市や企業とも連携し、新キャンパスを活用した講座や体験イベントを通じて多様な参加者のニーズに対応する。また、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）との連携では、高校生が体験講座のアシスタントとして参加できる仕組みを整備する。既存の「サイエンスキャラバン」「エンジニアリングカフェ」などの事業をさらに進化させ、地域や自治体が実施しているキャリア教育プログラムと連携することで資源の共有と相乗効果を図る。宮崎県教育委員会や市町村教育委員会と連携し、校務支援システムを活用した広報活動を強化するとともに、キャラバン実施校の開拓を進める。また、企業との連携をさらに強化し、地域の人材育成を支える枠組みを構築。今後は、アンケートによるニーズ把握や企業の既存イベントとのタイアップを進めることで持続可能な運営体制を確立する。

7

University of Miyazaki
Faculty of Engineering

推進委員会コメントへの対応状況

- ◎出張型の体験講座やキャリア教育と連動させたサイエンスキャラバンは、理系に関心が薄い生徒層にもアプローチできていると思うが、県教育委員会、市町村教育委員会との連携を深め、県内各地域にも取組を浸透させていただきたい。
- ◎1年目はイベントの周知にかかる時間が十分にとれず、前半に参加者が少なかったと思われるが、実施の時期や内容、周知方法などを検証し、2年目の事業に反映させていただきたい。

継続支援判定時のコメントに対する対応と経過報告

1年目に実施した「サイエンスキャラバン」や「出張型体験講座」等のプログラムは好評を得ていることから引き続き実施している。手を動かし学べる内容で効果的に理解を促進し、アンケートの満足度でも好意的なフィードバックを得ている。

イベントの目的と意義を重視して説明し、県教育委員会の協力を得ながら、**県内5市（宮崎、延岡、日向、都城、日南）の学校教育課との連携、校務支援システムを通じた全県立高校への周知、県内のキャリア教育コーディネーターを通じたサイエンスキャラバン実施校の開拓**など、県内各地域の対象者に周知を図っている。

1年目は周知にかかる時間が不足し、前半に参加者が少ないという課題があった。これを受け、2年目は以下の改善を行った。

まず、**校務支援システムや各市町村の教育委員会との連携を強化し、県内全域の中高等学校へ効率的にイベント情報を周知した。**また、**ホームページをリニューアルし、イベントの申込手続きの簡素化や、過去のレポート掲載による企画の魅力発信**を行った。日程面では、市教育委員会と協議し、学校行事や試験期間を考慮して参加しやすい時期を設定。内容面では、女子中高生向けに実験体験やロールモデルの講演を強化し、**SSH（スーパーサイエンスハイスクール）と連携して高校生が主体的に参加できるプログラム**も実施した。

これらの取り組みにより、2年目はイベント参加者が前年比で大幅に増加した。今後も教育委員会や学校との協議を継続し、日程調整や広報強化を進めるとともに、ホームページの充実や参加者フォローアップを通じて事業のさらなる発展を目指す。

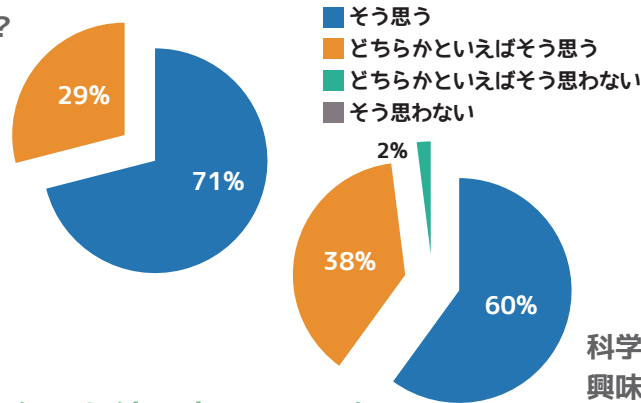
企画に対する成果検証、自己分析

2024年11月16日実施

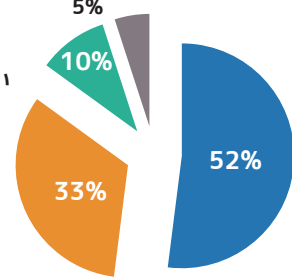
取組③アマテラスサイエンス体験講座

～生徒用アンケート結果より～生徒 42 名

内容を理解できた？



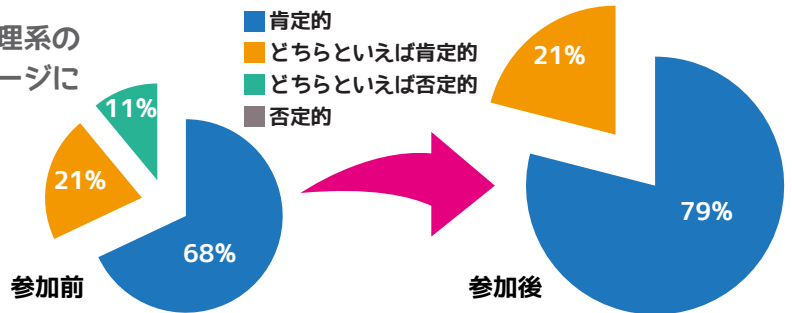
理系の進路を前向きに選択しよう
と思うようになった？



科学技術や理科・数学に対する
興味・関心が高まった？

～保護者・教員アンケート結果より～ 19 名

今回の取組への参加の前後で、女性が理系の
職業に就くことに対するあなたのイメージに
変化はありましたか？



課題解決に必要な条件や工夫改善すべき事項

各イベントの内容は精査されており、参加者（生徒、保護者、教員）の満足度は高かった。今後の課題として、情報を届けるべきターゲットを明確にし、そのターゲットに訴求するようなアプローチや企画を絞り込んだ広報活動や、事業の実績を学校教員に広く知ってもらい活用方法を促す等、次年度以降も質的向上や仕組みづくりの具体化に取り組んでいきたい。

宮崎大学工学部

集まれ！宮崎アマテラスガールズ プロジェクト
(JST 女子中高生の理系進路選択支援プログラム)

TEL : 0985-58-7366

MAIL : jyoshi.shien@cc.miyazaki-u.ac.jp

WEB : https://www.miyazaki-u.ac.jp/jyoshi_shien/



「集まれ！宮崎アマテラスガールズプロジェクト」は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の支援を受け、宮崎大学工学部が教育委員会や民間企業と連携して、女子中高生の理系進路選択をサポートするプログラムです。